

九谷焼技術者自立支援工房 中期経営目標

(実施期間 平成30年度～平成34年度)

平成30年3月 策定

1 施設の設置目的

本県の伝統産業である九谷焼の振興を図るため、九谷焼産業を担う人材の自立を支援することを目的として設置しています。

2 施設の果たすべき役割

個室及び共同工房からなるインキュベーター施設として、九谷焼産業を担う人材の創作活動と自立の支援を行うほか、共同工房の充実した設備を開放し、事業者の商品開発等の支援を行っています。

3 事業内容

(1)共同工房

窯場、釉薬室等の九谷焼の制作に必要な全ての設備を備えており、九谷焼の制作に従事し、又は従事しようとする者に、これらの設備を有料で貸し出しています。

また、個室工房入居者や共同工房利用者を支援するため、「ギャラリー彩(いろどり)」にて、制作作品等の展示販売を行っています。

(2)個室工房

電気窯、作業台等を備え、成形から上絵までの一貫制作ができ、長期間(最長3年間)自由に使用できる個室工房(5室)を、九谷焼制作に5年以上従事し、かつ、相当の経験と技能を有し、自立の支援を必要とする者に、有料で貸し出しています。

4 現状と課題

(1)共同工房利用者の確保・支援について

- ・共同工房については、平成28年度に885人の利用がありますが、一層の利用促進に向け、アンケート調査などを通じ、利用者の意見を聞き、作業環境や利用方法の改善に努めるとともに、九谷焼技術研修所や業界と連携を積極的に図りながら、PRに努めていく必要があります。
- ・ホームページについては、ガス窯、上絵窯等設備の予約状況の閲覧ができますが、さらなる内容充実を図り、アクセス数の向上に向け、改善していく必要があります。

(2) 個室工房入居者の支援について

- ・入居者が自立できるよう、隣接する九谷焼技術研修所のデザイン支援事業等への参加を促すなど、技術、経営面の指導や販路開拓の支援を行っていますが、伝統産業を取り巻く環境は、市場縮小等もあり、依然として厳しい状況にあり、より一層の支援が必要となっています。
- ・入居者の意見を聞きながら、各個室へ空調設備の設置等を行ってきたところであり、引き続き、作業環境の改善に努めていく必要があります。

(3) 「ギャラリー彩」の充実について

- ・春の九谷茶碗まつり、秋の九谷陶芸村まつりに合わせた卒業生の個展・グループ展の開催などを行っていますが、展示内容の充実など魅力向上やPRを工夫し、情報発信に努めていく必要があります。

(4) 施設運営の効率化について

- ・庁舎維持管理費については、平成13年の開設当初から警備、清掃、電気設備、空調設備などの業務を委託するなど工夫してきたところであり、一層の経費節減など、施設運営の効率化に努めていくこととしています。

5 中期経営目標

(1) 中期経営目標

- | |
|------------------------------|
| ① 共同工房利用者数を5年間で5%増加させます。 |
| ② 個室工房入居率100%を維持します。 |
| ③ 工房利用者満足度は、引き続き90%以上を維持します。 |

(2) 測定指標と目標値

測定指標	基準値 (H26~28平均)	中間目標値 (H32)	最終目標値 (H34)
① 共同工房施設利用者数	849人	880人	900人
② 個室工房入居率	100%	100%	100%
③ 工房利用者満足度※	96%	90%以上	90%以上

※満足度はアンケート結果の「満足」及び「概ね満足」の合計

6 目標達成に向けた具体的な取組内容

(1)共同工房利用者の確保・支援について

- ・石川県九谷陶磁器商工業協同組合連合会及び各企業等関係者と密接に連携を図り、共同工房の利用を促すとともに、平成23年4月に発足した九谷焼技術研修所のOB経営者連絡会を通じて研修所卒業生へ利用を促します。
- ・九谷焼技術研修所の現役研修生の自主制作などで利用を促すなどの利用促進策を検討します。
- ・ホームページについては、利便性を高めるため、使い勝手を改善するとともに、引き続き、共同工房利用者の個展・グループ展の開催情報といった内容の充実に努めます。
- ・利用者アンケート調査を実施し、これまで以上に利用者の意見を聞き、作業環境や利用方法の改善に努めます。
- ・定期的に施設のメンテナンスを行い、現状の水準を下がらないように利用促進に努めます。

(2)個室工房入居者への支援

- ・入居者の自立を支援するため、技術面、経営面の指導を行うため、デザイン支援事業への参加を促すとともに、ホームページで入居者の個展・グループ展の開催情報等の提供を行います。
- ・ギャラリー彩での展示販売のほか、春の九谷茶碗まつり、秋の九谷陶芸村まつりへの参加を促します。

(3)「ギャラリー彩」の充実

- ・来訪する一般客、業界関係者やバイヤー等に、展示商品をよりアピールし、販売促進に繋げるため、常設展示を3ヶ月ごと又は、季節にあった商品に入れ替えるほか展示用小物を充実させるなど、展示方法の改善に努めます。
- ・より多くの方々にギャラリー彩を知っていただき、来所してもらえるよう、県や各市町の広報媒体を利用しPRに努めます。
- ・ホームページにおけるギャラリー彩の展示内容等の情報提供を充実させます。

参考資料

1 施設の利用状況

(1) 利用指標(利用人数、稼働率などの状況)

項目	H26	H27	H28
共同工房施設利用者数	948 人	714 人	885 人
共同工房設備利用件数	719 件	595 件	684 件
個室工房(貸室)の入居率	100%	100%	100%
「ギャラリー彩」見学者数	8,734 人	7,889 人	9,941 人

(2) 使用料の収入実績

(単位:円)

項目	H26	H27	H28
共同工房施設使用料	3,579,120	3,149,160	3,210,120
個室工房施設使用料	1,450,130	1,529,740	1,336,750
計	5,029,250	4,678,900	4,546,870

2 収支の状況

(単位:千円)

項目		H26	H27	H28
歳入	共同工房施設使用料	3,579	3,149	3,210
	個室工房施設使用料	1,450	1,530	1,337
	個室工房光熱費	1,317	1,146	1,203
	一般財源	4,227	3,806	4,107
	計	10,573	9,631	9,857
歳出	職員費	5,816	5,689	5,923
	管理運営費	4,757	3,942	3,934
	計	10,573	9,631	9,857

3 利用者1人あたりの一般財源投入額

	H26	H27	H28
一般財源投入額(千円)①	4,227	3,806	4,107
職員費を除いた額(千円)①'	0	0	0
利用者数(人)②	2,773	2,539	2,710
利用者1人あたりの一般財源投入額(円)	1,524	1,499	1,515
①÷②			
職員費を除いた額(円)①'÷②	0	0	0

※利用者数は(共同工房利用者数+個室工房入居者数×365日)